奄美大島のリュウキュウイノシシにみられた疥癬

半田ゆかり^{1)†}安田宣紘²⁾阿部慎太郎³⁾

1) 鹿児島県 開業 (〒894-0035 名瀬市塩浜町4-12)

2) 鹿児島大学農学部 (〒890-0065 鹿児島市郡元町1-21-24)

3) 環境省奄美野生生物保護センター (〒894-3104 大島郡大和村思勝551)

(2001年12月3日受付・2002年5月9日受理)

要 約

奄美大島のリュウキュウイノシシ *Sus scrofa riukiuanus* (イノシシ) で、全身の脱毛あるいは苔癬化が著しい皮膚病が認められた。イノシシ2頭の病変部からは、疥癬の原因となるセンコウヒゼンダニ *Sarcoptes scabiei* (ヒゼンダニ) が検出された。イノシシの皮膚病は1978年に瀬戸内町で初めて確認され、その後発生数が増加し、発生地域も拡大した。奄美大島で飼育されている豚に以前から疥癬が発生していたことから、イノシシに認められた疥癬は豚から感染したと考えられた。——キーワード：イノシシ、疥癬、奄美大島。

----- 日獣会誌 55, 498～500 (2002)

近年、ヒゼンダニ *Sarcoptes scabiei* による疥癬がさまざまな地域で多くの野生動物に見られるようになり [9]、地域的な蔓延が危惧される野生動物もある [5-8, 10]。西日本におけるイノシシの疥癬は、1980年に京都府などの狩猟例で初認され、1997年以降発生地域が拡大している [9]。一方、奄美大島でもイノシシの皮膚病が目撃されていたが、その原因は不明であった。この皮膚病は1990年以降に頻繁に見られるようになり、それと期を同じくして、奄美大島本島での狩猟期のイノシシ捕獲頭数が著しく減少し、1986年の捕獲頭数1,825頭に対して2000年の捕獲数は417頭で4分の1以下となった [2, 4]。捕獲頭数の減少には、乱獲や密猟の可能性も考えられるが、皮膚病の存在の影響が大きいものと思われる。本調査では2例の皮膚病変のあるイノシシを観察し、皮膚病が疥癬によるものか否かについて検討した。

材 料 お よ び 方 法

皮膚病に罹患したイノシシ2例 (No. 1, No. 2) と対照として典型的な疥癬の豚1例を被験動物とした。No. 1は1998年1月に奄美大島大和村で狩猟された雄の成獣で、No. 2は2001年3月に名瀬市朝戸の道路側溝で通行人により発見された雄の未成獣死体である。豚は4歳の種豚で、2001年5月に名瀬市浦上の養豚場でヒゼンダニが検出された種豚である。No. 1は捕殺後に腰部の皮膚病変 (20×20cm) を切り取り、冷蔵庫保管したもの

を翌日に提供された。No. 2は事故による外傷や腐敗はなく当日死亡したと考えられた。死因の特定は困難であった。豚は生体検査後焼却処分された。No. 1は脱毛部分の皮膚、赤い丘疹および痂皮の部位を、No. 2と豚は眼周囲・耳および背中をそれぞれメスで搔爬 (1×1mm) し被検試料とした。試料をスライドグラスに載せ、10%水酸化カリウム水溶液を滴下し10分間加温して皮下組織を溶解後、光学顕微鏡により外部寄生虫の検索と同定を行った。

図1 疥癬に罹患したリュウキュウイノシシの外貌

† 連絡責任者：半田ゆかり (奄美動物病院)

〒894-0035 名瀬市塩浜町4-12

☎0997-52-2022 FAX 0997-52-2025

図2 イノシシの痂皮から検出されたヒゼンダニ

結果 および 考察

イノシシ2例は共通して湿疹、痂皮形成および広範囲の脱毛が認められ、脂漏症特有の悪臭が強かった(図1)。No. 1の腰の病変部は脱毛した皮膚に赤い丘疹と痂皮があり、被毛が少ない白豚の皮膚様であった。皮膚病変部は灰白色で苔癬化して象の皮膚様に肥厚していた。提供した狩猟者によれば、捕殺体は痂皮からの強い皮膚病臭のため接触する犬や人への感染を恐れて山中に放棄したとのことであった。No. 2の死体には背中、四肢および尾の先にわずかな剛毛が残るだけであった。全身の皮膚は湿疹と灰白色の痂皮におおわれ、痂皮をはがすと血様の液体が滲出して悪臭があった。特に頭部の眼の周囲、耳、腰および腹部の皮膚は結合組織が増生し肥厚していた。痂皮は厚く、搔爬した皮膚のすべての試料から多数のダニが回収され、そのすべてがヒゼンダニであった(図2)。

奄美大島では1970年代から1980年代にかけて養豚業が盛んとなり、本土や琉球諸島と活発な豚の流通があった[11]。豚の疥癬は1976年頃に請島で、また、1978年頃に瀬戸内町で確認されている。当時、繁殖用の豚は人里離れた牧柵内で放牧されていたが、現在でも養豚場に入出入りするイノシシの姿がしばしば目撃されていることから、野生イノシシと接触した可能性は大きかったと考えられる。狩猟関係者に対して行ったイノシシの皮膚病調査では、最も古い情報は1978年の瀬戸内町の2件であり、同年の捕獲頭数は1,273頭であった。その後は1983年に同じ瀬戸内町の3件であったが、1987年以降からは毎年確認されるようになっている[2]。本調査の2例のイノシシにみられた皮膚病変は、対照とした豚の典型的な疥癬の病変ときわめてよく似ていた。ヒゼンダ

ニには高い宿主特異性があるにもかかわらず、固有宿主ごとの形態上の差異とされ一種とみなされている[1]。イノシシと豚は生物学的に同一種である[5]ことから、共通のヒゼンダニが寄生する可能性は高い。奄美大島ではイノシシの皮膚病例よりも豚の疥癬例が先に見られていることから、豚の疥癬がイノシシに感染した疑いが大きいと考えられる。

島という狭い環境での病気は野生動物の地域個体群に対して大きな影響を与える。豚からの病気やイノシシの純血性を保護するためには、疫学的調査や豚舎の管理による豚とイノシシの隔離などの取り組みが求められる。

ヒゼンダニの同定では鈴木 博先生(長崎大学熱帯医学研究所)、内川公人先生(信州大学医学部)にお力添えをいただいた。また、阿久沢正夫先生(鹿児島大学農学部)、仲谷 淳先生(近畿中国四国農業研究センター)、高橋 守先生(埼玉県立川越総合高等学校)、馬場 稔氏(北九州市立自然史博物館)の各氏には疥癬の文献をご教示いただいた。聞き取り調査では上原修一先生、鬼塚 剛先生、岩村英俊先生、磯部知弘先生(以上鹿児島県職員)、神田栄次氏(東京都鳥獣保護員)、四本龍太郎氏、武宮賢二郎氏(名瀬市猟友会)、山田一郎先生(鹿児島県大島地区獣医師会会長)のみなさんにご協力をいただいた。心から感謝する。

引用 文 献

- [1] 板垣四郎, 板垣 博: 家畜寄生虫学, 金原出版, 東京, 303-312 (1965)
- [2] 半田ゆかり: 奄美諸島のリュウキュウイノシシの生息に関するアンケートと狩猟統計, 日獣会誌, 53 (8), 525-528 (2000)
- [3] 鹿児島県大島支庁総務課編: 奄美群島の概況, 1956-1999年度版
- [4] 黒澤弥悦: イノシシと豚の関係を探る, 動物たちの地球, 54, 172-173 (1992)
- [5] 鈴木義孝, 杉村 誠, 金子清俊: 岐阜県下の野生タヌキにおける疥癬の蔓延について, 岐阜大農研報, 45, 151-156 (1981)
- [6] 高橋 守, 野上貞雄, 三角仁子, 山本芳郎, 酒井健夫: 神奈川県下でみられた野生のタヌキのカイセン症について, 大原年報, 40, 56 (1997)
- [7] 谷地森秀二, 山本祐治: 八王子市周辺のホンダタヌキの繁殖年周期と脱毛個体一聞込み及びアンケート調査から一, 自然環境科学研究, 5, 32-42 (1992)
- [8] 山本貞司, 高橋 守, 野上貞雄: 群馬県富岡・甘楽地方の野生タヌキにみられた疥癬について, Medical Entomology and Zoology, 49, 217-222 (1998)
- [9] 野生動物保護管理事務所: 平成9年度里地性の獣類に関する緊急疫学調査報告書, 63pp, 環境庁 (1998)
- [10] 野生動物救護ハンドブック編集委員会: 野生動物救護ハンドブック—日本産野生動物の取り扱い—, 文永堂, 326pp (1996)
- [11] 横山豪朗: 奄美の養豚, 鹿児島県養豚史, 鹿児島県養豚振興協議会編, 13-16 (1996)

Scabies in Ryukyu Wild Boars on Amami-Oshima Island

Yukari HANDA^{*†}, Yoshihiro YASUDA and Shintaro ABE

^{*} Amami Animal Hospital, 4-12 Shiohama-machi, Nase 849-0035, Japan

SUMMARY

In recent years, skin disease with body-wide alopecia or marked lichenification has been observed in Ryukyu wild boars (*Sus scrofa riukiuanus*) living on Amami-Oshima island. Sarcoptic mange mites (*Sarcoptes scabiei*) have been detected from skin lesions on diseased animals. The disease was first detected in 1978 in Setouchi-cho on Amami-Oshima. It has since become widespread. The wild boars are thought to have been infected by feral Amami-Oshima pigs, on which sarcoptic mange mites have been detected.

— Key words : wild boar, scabies, Amami-Oshima island.

[†] Correspondence to : Yukari HANDA (Amami Animal Hospital,)

4-12 Shiohama-machi, Nase 849-0035, Japan TEL 0997-52-2022 FAX 0997-52-2025

J. Jpn. Vet. Med. Assoc., 55, 498 ~ 500 (2002)

高単位総合ビタミン剤

リケビタン

高単位VA特殊調整 1000万IU 100ml

エクセレントA-1000 液

投与量：200cc

総合強壮・強肝内服液

パラゲンロ-ヤル[®]

投与量：〈分娩時〉500cc

高単位ビタミンAD3E内服薬 1 ℓ

ビタオイル 第2液

投与量：〈分娩時〉200cc

マイシリン製剤20 g

乾乳用 ホ-ミング[®]DC

〈乾乳時〉1 容器全量注入

マイシリン製剤20 g

ホ-ミング[®]MC

〈泌乳時の乳房炎治療〉1 容器全量注入

ジクロキサシリン製剤20 g

ホ-ミング[®]DX

〈泌乳時の乳房炎治療〉1 容器全量注入

理研畜産化薬株式会社

本社／東京都杉並区高円寺南2-41-12

工場／埼玉県川口市元郷4-1-8

TEL (0482) 24-8451(代)

FAX (0482) 24-1079